

腎臓内科後期研修カリキュラム

【一般目標】

患者にとって満足できる腎臓病診療を提供するため、腎臓病診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的な一般内科診療を実践できる医師となる。

【行動目標】

1. 腎臓専門医として必要な基本的な知識、臨床能力（診察・検査・診断）、人間性を身につける。
2. 定められた腎臓病患者を主治医として担当し、適切な診療プロセスを修得、実践する。
3. 定められた腎臓内科診療、血液浄化療法に必要な検査、手技を経験し、習熟する。
4. 一般内科臨床に必要な救急診療能力、全身管理能力を修得する。
5. 専門医として研修医・コメディカルを指導し、チーム医療を実践できる。
6. 患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する。
7. 日本内科学会認定医・日本腎臓学会専門医・日本透析医学会専門医受験に必要なとされる要件を満たす。

【方略】

1. 腎臓内科入院患者を主治医として担当する。
2. 外来患者を担当医として診療する。
3. 透析センター当番医として浄化療法患者を担当する。
4. 腎疾患診療に関する特殊検査・シャント手術などを担当する。
5. 指導医の下に ICU を担当する。
6. 指導医の下に救急を担当する。
7. 症例検討会で発表・討論を行う。
8. 学会発表・論文発表を行う。
9. 名古屋腎臓内科専門医養成プログラム(Nagoya Nephrology Fellowship Program 以下 NNFP)にフェローとして参加する。

【週間スケジュール例】

	月	火	水	木	金
午前	回診	透析当番	外来	検査	回診
午後	救急	検査	手術	回診	透析当番

なお 土曜日は 交代制で勤務する。

【評価方法】

項目	評価者	時期	評価方法
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	3ヶ月ごと	自己記録
経験した浄化療法数・関連手技数	自己・指導医	3ヶ月ごと	自己記録
ICU・救急担当管理患者	自己・指導医	3ヶ月ごと	自己記録
定例カンファレンスでの症例提示・検討内容	自己・指導医	毎週	口頭
学会発表・論文発表	指導医	1年ごと	自己記録
NNFP 研修での評価	自己・指導医	1年ごと	自己記録

【別に定める事項】

担当すべき患者の疾患と患者数

日本腎臓学会(腎臓専門医研修カリキュラム)・NNFP のカリキュラムに準じる
(付帯事項参照)

目標とすべき学会発表

腎炎・膠原病に関するもの1回、血液浄化療法に関するもの1回/年
論文発表は、3年研修中に可能であれば1編

NNFP の概要とフェロー参加規定

Nagoya Nephrology Fellowship Program (NNFP)
(名古屋腎臓内科専門医養成プログラム) 付帯事項参照

【具体的目標】

1. 手技的事項

1) 専攻医一年次(卒後3年目)

ア) 手技・手術

術者：エコー下ブラッドアクセスカテーテル留置術	5例以上
自己血管内シャント造設術	3例以上
助手：透析シャント血栓除去術	5例以上
透析シャント血管形成術(PTA)	3例以上

イ) 検査など

術者・主治医：

血液透析新規導入	5 例以上
腹膜透析導入	1 例以上
腹膜平衡検査	1 例以上
血漿交換	1 例以上
助手：エコー下腎生検	
腹膜透析カテーテル造影	1 例以上
透析シャント造影	5 例以上
ウ) セミナー参加	
名古屋腎臓内科専門医養成プログラム	
2) 専攻医二年次（卒後 4 年目）	
ア) 手技・手術	
術者：透析シャント血栓除去術	5 例以上
透析シャント血管形成術（PTA）	2 例以上
助手：	
透析シャント再建術	5 例以上
人工血管内シャント造設術	3 例以上
イ) 検査など	
術者：エコー下腎生検	5 例以上
腹膜透析カテーテル造影	1 例以上
透析シャント造影	5 例以上
ウ) セミナー参加	
名古屋腎臓内科専門医養成プログラム	
3) 専攻医三年次（卒後 5 年目）	
ア) 手技・手術	
術者：人工血管内シャント造設術	3 例以上
透析シャント再建術	2 例以上
イ) 検査など	
術者：エコー下腎生検	5 例以上
ウ) セミナー参加	
名古屋腎臓内科専門医養成プログラム	